

## 【愛成会ドッグセラピー事業計画】

ドッグセラピーは、愛成会の理念である「愛生相和」、人と動物との互助と感謝を体現する柱のひとつです。

西欧では50年以上歴史のあるドッグセラピーですが、日本ではまだあまり認知されておらず、JKCの正式なセラピー犬の認定試験もありません。シュー（ラブラドル・レトリバー♂ バニラ ボルドー オブ ミナミフジ JP 3歳）は訓練犬としてJKCの主催する大会に出場しています。H23年度の成績は、ST連合会秋季全国訓練競技会ではCDⅡクラスで10位入賞を果たし、東日本大会では7位入賞しました。H24年9月JKC神奈川ブロック大会で2位入賞し、トレーニングチャンピオンとなりました。その後も秋季全国訓練競技会9位入賞、12月スーパードッグトレーナーズクラブ訓練競技会でも2位入賞と好成績を収め、チャンピオンの中のチャンピオンであるグランドチャンピオンを目指して訓練大会に出場しています。

シューは生後6ヶ月からドッグスクールに通い、いついかなる状況でも人間の指示に正確に従う訓練を入れています。施設では開所以来3年間、中庭や屋上で犬とゲストがキャッチボールを行っていますが、未だ事故は1件もありません。これはセラピー中の補助者によるゲストの見守り強化はもちろんですが、犬がドッグスクールで訓練を続けている成果であり、躰を維持するためにこれからも週1~2回、大会出陳前は週3回程度訓練を続けていく必要があります。

H23年11月生まれのサン（ジャーマン・シェパード♂ 1歳）も生後5ヶ月からドッグスクールで訓練合宿し警察犬として登録を済ませました。サンは現在、災害救助犬として社会の役に立つように訓練を受けています。サンの特性を見ながら、施設での役割を検討中です。

## 【ドッグセラピーの方法と効果】

### AAT（動物介在療法）によるドッグセラピーの効果（検証） ウィキペディア

ドッグセラピーを一定期間続けることによって「記憶力の改善」など認知症の改善や「反応する」「笑う」「発語」「車椅子からの自立歩行」「自力によるトイレ利用」など反応や行動に変化がみられた。ドッグセラピーが単に犬と触れあうというだけでなく、患者自ら犬に触れ、犬に話しかけ、犬と共に歩く（歩きたいと思う）ことにより心理的な改善効果となり、積極性や前向きな姿勢を生み出していることが立証されている。

また、ドッグセラピーAAT 頻度 週1回30分でNK細胞活性がみられ、免疫力が上がったとの日本レスキュー協会の報告事例もあり、熊本市にある高野病院でもドッグセラピーを導入した結果、痛みの緩和・ターミナルの緩和ケア

に優れた効果があることを実証しています。H24年には横浜市南区こども医療センターでもドッグセラピーを導入しました。

### ★愛成会でのドッグセラピー

頻度 週1~2回 30分程度

#### ① 犬と日光浴・触れ合い

これは一般にドッグセラピーと言われるAAA（動物介在活動）で、動物と触れあうことで情緒的な安定、QOLの向上を目的としています。

日光浴や外気浴が体調を整えることはいふまでもありませんが、ただ座っているだけではなく犬の姿を見たり犬に触れたりしながら屋外で日光浴をします。

天候の悪い日は、共有スペースで犬と触れ合います。昔飼っていた犬と目の前にいる犬の記憶が重なりあい回想法にも役立っています。犬の好きな方はドッグセラピーを1日中楽しみにされています。単調になりがちな施設での生活の中で、ゲストにとってドッグセラピーはその日1日の大きな楽しみとなっています。

#### ② 犬とキャッチボール

中庭や屋上での犬とのボール投げはゲストの機能訓練にも役立っています。退院後ADLの落ちてしまったゲストも犬がボールをキャッチする姿を喜び、初めはボールを落とすだけの力しか無かった方が徐々に、ボールを持とうと指を握ったり開いたりする動作や肘を動かす動作が見られてきます。

犬好きな方だけでなく、ボールを投げることの好きな方も参加されて喜ばれています。

日本で一般に言うドッグセラピーは犬好きな方を対象としており、愛成会では、犬が怖い方を除いて多くの方に参加していただいています。また、小型犬によるセラピーは女性参加者が多いのですが、大型犬の場合は多くの男性参加があります。最初「大きな犬は怖い」と仰る方も訓練された大型犬が指示に従う姿をみて安心してセラピーを楽しめます。また、犬と触れあうだけでなく、犬に向けて犬が受け止めやすいボールを投げるという行為による機能訓練にもなっています。愛成会では、認知症の改善・運動機能の回復などAATで検証された効果を目的としたドッグセラピーを行っています。

愛成会の法人理念は「愛生相和」自然と人間との調和であり、互助と感謝の気持ちを持って生きていくことです。犬と人間とのよりよい共生を目指してよりよいドッグセラピーの方法を研究しています。

## ☆シュー☆

(ラブラドール・レトリバー) 3才 ♂

・当日の気温・天気にあわせて、中庭や屋上でキャッチボールや日光浴をしたり、共有スペースでゲストと触れあいます。

\*愛成苑1F中庭側の共有スペースはゲストのご家族のわんこ(室内犬)も面会に使っています。

・ドッグセラピーに参加したいゲストご家族のご要望に応えます。ゲストに参加の意向を聞いてお連れください。

・訓練のためトレーニングスクールに行く日(主に火・金)と、犬の体調の悪い時はセラピーを中止します。

・ユニットCWの補助をお願いします。

### 【補助方法】

#### ① 車椅子使用のゲスト

- ・フットレストを上げ、床に足がつくように姿勢を直す。
- ・ティルトリクライニングの場合は、ゲストに無理のない程度に身体を起こす。
- ・セラピー中、両側のブレーキがかかっていることを確認する。
- ・立ち上がって投球したいゲストの補助をする。
- ・犬がボールを受けるときには、ゲストの足や膝を守る。

#### ② ボールの飛ぶ方向を見極めながら、危険を予測し、即座に対処できる位置と姿勢で見守る。

#### ③ セラピーによるゲストのADLの変化や表情の変化(笑顔)に気づき日常のケアに活かしてください。

- ・セラピー前後はゲストの手洗い、また終了後は水分補給をお願いします。
- ・衛生区域以外で行っています。
- ・当日のゲストの体調を優先します。
- ・施設長が担当です。